

ニュージーランド キウイフルーツ産業の3つの記念日

[HORTNEWS 2024年9月13日](#)

キウイフルーツ生産者は来月、業界の3重の祝賀を迎える。

10月22日にマウントマウンガヌイ地区(タウランガ市内のゼスプリ本社の所在地)のマーキュリーベイパークで開催される祝賀ディナーでは、過去と現在の生産者に加え、業界の関係者が一堂に会する。

このイベントは、業界の成功を支えるシングルデスクの仕組み(独占販売制度)の35周年、生産者支援団体であるニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会(NZKGI)の30周年、そしてゼスプリの商業運営を可能にするキウイフルーツ産業再編法の25周年を祝うものである。

NZKGIは声明で、ニュージーランドのキウイフルーツ産業が今日の成功に至る道のりは、決して平坦なものではなかったとして次のように述べている。

「ニュージーランドを象徴するキウイフルーツの物語は、1900年代初頭に少数の果樹園が形成された時に始まった。しかし、商業的なキウイフルーツ産業が本格的に始まったのは1960年代になってからであった。

当時の生産者の多くは、今日我々が知っている業界のバックボーンを作り上げることに尽力した。祝賀会には過去と現在のすべての生産者と業界の関係者が集まり、互いに旧交を温め、業界がどれだけ進歩したかを称え合う。

この祝賀会は、参加者が交流するとともに、今日大成功を収めている業界の基礎を築くために多大な個人的犠牲を払いつつリーダーシップと交渉スキルを発揮した業界の先駆的な生産者から話を聞く機会である。」

キウイフルーツ栽培者のヘンドリック・ピーターズ氏は、こうした生産者の1人であり、20代の頃にキウイフルーツの区画を設置し、後にテプケ地区果実生産者協会に参加した初期の頃を振り返る。

1980年代までに、キウイフルーツの生産は活況を呈するようになった。

ピーターズ氏は、「販売と輸出業者について多くの議論があり、私は変化の必要性について見解を持つに至った。生産者は輸出業者や小売業者の言いなりになっており、私は生産者が栽培だけでなく、販売についてももっと主導権を持つべきだと考えていた」と話す。

キウイフルーツが豊富にあり海外での需要が減少していたため、輸出用のキウイフルーツをすべて買い取る権限を持つキウイフルーツ販売委員会が設立された。2024年は、キウイフルーツ輸出のためのシングルデスクの制定から35周年を迎える。

1992年と1993年には、キウイフルーツ販売委員会が価格を高く設定しすぎ、キウイフルーツは廃棄を余儀なくされた。生産者達は莫大な借金と不安を抱えており、何かを変える必要があった。ピーターズ氏は生産者達をまとめ、彼らの利益を代表する作業部会の結成に向けた合意形成に主導的役割を果たすことになった。この作業部会は後に、ニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会(NZKGI)として知られることとなる。現在、約2,800人のキウイフルーツ生産者の声を代表しているこの組織は、30年前の1994年に実現した。

その後、1999年9月にキウイフルーツ産業再編法が可決され、キウイフルーツ販売委員会の商業的運営体であるゼスプリが、生産者間での株の取引が可能な会社として、2000年4月1日に設立された。2024年は、キウイフルーツ産業再編法の25周年に当たる。

ピーターズ氏は、キウイフルーツかいよう病(Psa-V)からの回復を含め、キウイフルーツ産業が成功を収めたのは偶然ではないと言い、「我々のゼスプリモデルは魔法のようなものであり、守る必要がある」と述べた。

執筆者: スデシュ・キッスン